

Happy New Year 2022!

あなたの1年が神様からの豊かな祝福で溢れますように！



空腹を いやす
希望を もたらす

思いやりの力は 働き続けます

みなさんが、里親制度のスポンサーやメトロの協力者としてご支援を続けてくださる中で「私の支援にどんな効果があるのだろうか」と思われたら、ケニアの3歳の女の子、サマラの話を聞いてください。

幸いにもサマラの兄にはスポンサーがいますが、感染症拡大のピーク時には学校が閉鎖されたため、子どもたちにとって

命綱とも言える学校給食を食べることができませんでした。それでも皆様のご支援のおかげで、ケニアのメトロチームは主食のトウモロコシ粉を購入し、住所がわかっているスポンサーがいるすべての子どもの家族に袋を届けることができました。あなたのご支援が、多くの家族の暮らしを一変させたのです！

[次のページへつづく](#)

今月の引き落とし日！

1/17(月)です。残高のご確認をお願いします！

インターンシップ参加者募集！

最終ページをご確認ください。

今月号の目次

- P2…空腹をいやす 希望をもたらす
／スタッフからの声
- P3…スタッフが見るスラム
- P4…日本事務所からのお知らせ

空腹を いやす 希望を もたらす

思いやりの力は 働き続けます

私たちがサマラの家に着いて母親にトウモロコシ粉の袋を渡した途端、サマラはそのうちの一袋をひったくるようにして奪い、抱え込んで離しませんでした。母親が取り返そうとすると、サマラは泣きながら袋を持って逃げて行きました。その様子から、サマラがしばらく何も食べていなかったことがわかりました。空腹のあまり、粉を袋からそのまま食べようと思ったのです。

サマラの母親は、この困難な時期に子どもたちに食事を与えることができるとも感謝していました。このように、緊急支援が必要な家族に命をつなぐ食料を届けることができたことは、あなたの思いやりのお陰です。

こうして届けた食料は、空腹を満たすだけでなく、子どもたちの安全を守ることにもなります。食料支援で各家を回っている中で、ある母親が泣きながら話してくれた出来事に私たちの胸は張り裂けそうになりました。彼女の11歳の娘のマケナが、切羽詰まって、食べ物を分けてもらいに近所を回っていると、同じ地区に住む男性が「食べ物をあげる」と家に招き入れました。しかし、家に入るなりマケナはその男性にレイプされてしまったのです。男は逮捕されましたが、マケナ母子はその男の家族に脅されるようになったため、親戚が住む3時間離れた安全な地へと、引っ越すことになったのです。

また、9歳のジョセフという男の子は、少しでも食べ物を手に入れるために自分にできる仕事がないかと、毎日出掛けて探し回っていました。

今ではケニアでも学校が再開されているので、感謝なことにマケナやジョセフも普通の子どもとして過ごすことができ、安全な環境で神様の愛について学ぶことができます。



メトロのスタッフも、子どもたちもその家族も、神様の愛を伝えようと、海の向こうから手を差し伸べてくれるあなたの思いやりには感謝の言葉ありません。この子たちが暮らす地域では、普通の子どもでいることは決して普通のことではないのです。

メトロのスタッフからの声

デズモンド・ナイドゥ

ニューヨークに来て10ヶ月、道ばた教会学校で子どもたちとその家族のために働いています。新型コロナウイルスは経済的にも精神的にも人々に多大な影響を与えました。私たちは、神のみ手の延長線上で働く者として力を合わせ、神の愛と最高の贈り物の喜びをこの子どもたちに知ってもらえることができますはずです！

※10年前、ビル牧師の祝福を受けて、デズ牧師は南アフリカで最初のメトロの日曜学校を立ち上げ、今では、ヨハネスブルグ、ケープタウン、ダーバンで6,500人以上の子どもたちがメトロで学んでいます。2020年にデズ牧師は導きを受け、妻のジェニーはじめ家族とともにニューヨークに移住しました。メトロ全体の活動と使命が拡大を続ける中で、直接ビル師と一緒に働くためです。



ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。善を行なうことと、持ち物を人に分けることを怠ってはいけません。神はこのようないけにえを喜ばれるからです。

ヘブル人への手紙 13:15-16

スタッフが見るスラム ニューヨークスタッフ:カロラ

《アメリカ》

メトロの活動場所である「プロジェクト（低所得者用の公団）」の住人の中には、10代の娘に妊娠するようけしかける母親がいます。政府からの経済的支援を当て込んでのことです。その結果、母親と娘とその子ども、という三世代からなる家族がプロジェクトの一室に住む例は珍しくありません。このようなケースの多くは、恋人を次々と変えながら、恋人を加えた共同生活をし、全員が生活保護に頼って暮らします。

プロジェクトの住民たちの生活について、タニーシャを例に挙げてご紹介します。タニーシャの家には寝室が3つあり、プロジェクトの住宅としては広い部類です。4人の子どもは成人しましたが、皆、タニーシャとの同居を続けています。

タニーシャの娘ジョイ(21歳)は、高校を中退しました。16歳で妊娠したからです。そして18歳の時に2人目を妊娠しました。今、ジョイと2人の子どもが1つ目の寝室を使っています。ジョイは無職で、日中2人の子どもを保育園に預けていますが、保育料も食事も政府からの支援で賄っています。2人の子どもの父親はそれぞれ違い、どちらの父親も自分の子どもに関心がありません。今、ジョイには恋人がいます。しかし、彼は地元のギャングの一員で、週末になるとお酒を飲んだりマリファナを吸ったりして騒ぎ、ジョイも子どもたちを母親のタニーシャに預けて出掛けます。そしてジョイは、お金が入れば新しい服や化粧品、子どもたちを着飾らせる衣類に使ってしまいます。彼女にとって、見た目がとても重要で、子どもたちの成長や健康に必要な食料品にはまったく無頓着です。

タニーシャのもうひとりの娘ダニエラ(24歳)は、高校は卒業しましたが、その後すぐ妊娠しました。息子は6歳のジェイミーと言います。ダニエラも生活保護を受け、スーパーでパート勤務をしながら夜間大学で勉強しています。ジェイミーが4歳の時に幼稚園へ入園したのを機に勉強を再開したので、ダニエラもタニーシャに子どもの世話を頼むことが多いです。今はジェイミーの父親とジェイミーの3人で、2つ目の寝室で暮らしています。ジェイミーの父親はプロジェクトで管理人の仕事をしており、自分たちが独立して生活するための住居を市の住宅局に申請中ですが、なかなか順番が巡ってきそうにありません。

タニーシャは、高校3年生の末っ子タニアと3つ目の寝室を共有しています。そして、息子のテクアンは26歳で、家にいる時はリビングで寝ますが、たいていは恋人の家で過ごしています。恋人は1歳

になるテクアンとの娘を育てていて、その恋人の家では祖母と姉、姉の3人の子どもたちが同居しています。



テクアンは高校を卒業し大学にも入学したのですが、中退して地元ギャングの一員となりました。収入は多いのですが、麻薬や違法拳銃所持の罪で逮捕され、刑務所に入ったこともあります。

このように、タニーシャの家には大人が6~8人、3歳から6歳の子どもが3人住んでいます。一人一台ベッドを置く余裕はないので、子どもたちは床にマットレスを敷いて寝ています。夕食はたいていタニーシャが作りますが、作らない日は、子どもたちはチップスやクッキー、ポップコーンなどを食べ、水や炭酸水を飲んでお腹を満たします。

このような子どもたちにとって、服役経験がある人が周りにいることや、安定した仕事に就けないことは当たり前の環境です。同じ住宅内や近隣でギャングが活動していますから、薬物や銃器、ギャングの闘争なども身近なものとなっていくでしょう。それが彼らの見る世界なので、仕方がありません。おそらく、そのような環境が自分たちの生きる唯一の世界だと信じることになるのでしょう。大学を卒業して、待遇の良い仕事に就いて、健全な恋愛や結婚をして、ギャングの闘争や薬物とは無縁の地域で自分が家賃を払って生活する…そのようなことは、彼らには理解できないことでしょう。彼らの環境が、私たちには理解できないのと同様に…。

だからこそ、私たちはここでキリストの福音を伝えています。聖書が語る善悪の基準や良い生き方を子どもたちに伝え、正しい道を歩む大人へ成長する必要があります。誰かが、子どもの行くべき正しい道を教えなくてはならないのです。

道端教会学校や、毎週の家来訪問を通してメトロが子どもたちに関わり、ひとりでも多くの子もたちがイエス様と共に歩む、自立したクリスチャンになることができることを祈っています。ぜひあなたも、共に祈ってください。キリストの愛を子どもたちに示すために—



アメリカ編(終)

日本事務所からの重要なお知らせとお願い

手紙の翻訳について

お送りしています子どもからの手紙は、本部から送られてきたものを、間違いがないかチェックした上で皆様にお送りしています。

現在、基本的には個人からの手紙やカードに翻訳をつけておりません。ご希望の方は、写メやFAXなどご希望の言語(日本語と韓国語)と共にお知らせいただきましたら、翻訳してお送りします。本来は、すべて翻訳してお送りすべきところですが、メトロの働きはすべてボランティアの協力で行っておりますので、手が行き届かず申し訳ございません。

毎回翻訳をご希望の場合もお知らせください。次回からは訳を同封してお送りします。日本語と韓国語のみご対応できます。

インターンシップ参加者募集!

ニューヨーク春期インターンシップ(研修制度)が開催されます!参加をご希望の方は事前の面接が必要ですので、お早めにお申し出ください!

実施期間: 2022年3月22日~6月18日

対象年齢: 18歳~65歳

必須技能: 英語での十分なコミュニケーション能力

参加費用: US\$1,500

研修費、寮費、週5日の食費を含みます



お申込み・お問い合わせ(日本事務所)

TEL: 03-3561-0174 FAX: 089-925-1501

メール: metrojapan@mission.or.jp

※メールには必ずご返信します。返事が届かない場合は、お電話でご確認ください。

再引き落としについて!

昨年度より、残高不足等で引き落としができなかった場合は、次月分と合算して再引き落としさせていただきます。

再引き落とし手数料として110円を追加させていただきますので、ご了承ください。

確実に引き落としできるように、お手数ですが、引き落とし日前までに口座の残高をご確認くださいようお願いいたします。1月の引き落とし日は、1月17日(月)です。

再引き落としについての詳細は、以下のホームページアドレスでご確認ください。

metroworldchild.jp/2021/information/4151/



日本事務所よりごあいさつ!

あけましておめでとうございます。

新年を元気に迎えられましたでしょうか。2年も続くコロナ禍から、今年はずいとも脱却し新しい一歩を踏み出したいと願っています。

この2年、経済的困難のために多くのスポンサーの方々、苦しいところを通っておられることをうかがっていますし、継続できなくなった方も多くいらっしゃいます。しかし、主が皆様の祈りに答えて、経済面も健康面も祝福していただきますようにメトロのスタッフと共に祈っておりますので、今年は必ず状況が好転すると信じています。

ビル・ウィルソン師のセミナーも何とか今年中に開催できればと願っていますので、お祈りください。

ご支援に感謝し、皆様にとって祝福と恵みの溢れる一年となりますようにお祈りします。

日本事務所代表 万代栄嗣(まんたい えいじ)



メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061

東京都中央区銀座4-5-1

教文館6階 TFC内

電話 03-3561-0174

FAX 089-925-1501

メール metrojapan@mission.or.jp

URL <https://metroworldchild.jp/>



すべてのお振り込みは、下記宛にお願いいたします。

ゆうちょ銀行: 一六九店 当座預金 0041610

郵便局: 記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン